

特集 "キッチン①"

住宅のデザイン・構造・設備や居住空間の創造とともに、暮らしに欠かせない要素として、収納やキッチン、水回りに関することがあります。多くの女性にとっては、住宅に関する最大の関心事と言っても過言ではないかもしれません。そこで、今回は「キッチン」を特集のテーマとして取り上げてみました。皆様のキッチン計画のご参考になれば幸いです。



House-HKのキッチン。

分離発注による特注キッチンです。シンク部とコンロ部を分離し、それぞれ独立したユニットとしています。シンク部はアイランド型で、サイド・対面からも同時に作業が可能です。コンロ部 (IH ヒーター) は家電等を載せる棚と連続し、さらに PC・作業デスクとも連続します。コストを抑えながら、自由な発想のキッチンができたと思います。



TK-Houseのキッチン。

ダイニングテーブルの中に、既製のステンレスフレームキッチンを組み込みました。大人数が集まる機会が多いので、皆がテーブルの回りに集えるように考えました。レストランのダイニングを囲んでいるような感覚です。通常、キッチンの高さでテーブルの高さは異なりますので、目線を合わせるためにも、キッチンの床を 15 センチ程度下げています。



CH-Houseのキッチン。

大規模リフォームのキッチン。「台所」という囲われたスペースからキッチンを出し、オープンな LDK タイプに改めました。ただし、あまりオープンになり過ぎることなく、アール状のローカウンターを製作し、ダイニングとリビングを柔らかく仕切ります。カウンターの内側は多くの収納スペースになっており、ダイニング回りの雑多な物もきれいに片付きます。



R-3のキッチン。

料理が趣味の男性のためのキッチンです。左手が既製のシステムキッチン、右手は業務用ステンレス厨房機器です。システムキッチンは IH ヒーター、業務用は大容量のガスを供給します。あらゆる意味で、家庭用キッチンとは違いますので、床仕上げ・壁仕上げもそれに対応する必要があり、レンジフードも計 3 か所設けています。お招きをいただきご馳走になりましたが、さすがの腕前でした。



Sug-Houseのキッチン。

事務所兼倉庫をリフォームした住宅の、木製 L 型キッチンです。自ら杉材使用振興の全国団体が活動される方で、インテリアにも多くの杉材を使用しています。したがって、キッチンも当然秋田杉製です。木部・能代の桜庭木工さんに製作していただきました。建具製作技術を活かし、精度の高い仕上がりで、年々味わいを増しているようです。



東通の家のキッチン。

わが家のキッチン、13 年前のものです。ドイツ・プルトハウズ社製で、当時 TOTO で販売していました (現在はプルトハウズ・ジャパン)。スタイルとしては、ベニンシュラタイプになります。年月が経ちガスコンロの具合が良くありません (火が消えません!)。本体はかなり荒っぽく使っても、さすがのドイツ製でビクともしませんが、機器や消耗部材のメンテナンスやなど、もっと手軽に行えれば良いと思うのですが・・・

MEDIA-1



日本で唯一!『CM 分離発注方式』の家づくり雑誌・イェヒト 2009 年春号に、分離発注による昭和モダニズムの家・Ks-HOUSE が掲載されました。『柔らかい光に包まれた螺旋 (らせん) 階段の家』として、34 ページに渡り作品紹介と施主との打合せドキュメントが紹介されています。設計者と施主の打合せの過程が、図面や資料を交え、ドキュメントとして描かれています。写真は全て加藤一成の撮り下ろし。山中国省吾編集長からも、「一級建築カメラマン」の称号をいただきました (笑)。書店で見かけましたら、お手に取ってご覧下さい。

MEDIA-2



読売オンライン・「リフォーム成功のコツ」に Ch-house Remodeling が掲載されました。「区画整理による曳き家移転とリフォーム その 1」と題し、既存木造住宅の全面リフォーム例として紹介されています。お正月明け、HP を見た中島早苗さんから直接ご連絡いただき、取材協力を依頼いただきました。HP のリニューアル効果があったと、嬉しく思っています。1 事例 2 回の紹介で、次回は 2 月 24 日掲載予定です。他の事例と合わせてご覧下さい。

スタッフの日常・非日常 vol.09



こんにちは。スタッフの渡部です。2月吉日、くもり、住宅の現場を拜見してきました。それは、某有名建築家の設計。所長のコネで、幸運にも完成間近の現場に連れて行ってもらい、さらにはその方(がた)に直接お話を伺うことの出来る大変貴重な機会を頂きました。公共の建築は見れても、住宅を見られる機会はめったにないので。屋根の後線からなる断面と、それとは意識的に縁を切った平面構成。断面と平面の無関係さが結果として、起伏に富んだ空間として現れ、体験の特徴を決定付けている。ウマイです。とか言って、実際、現場ではアガってしまって挨拶のタイミングすらつかめず、ただ立ち尽くす始末。。

特別企画 バイトの日常・非日常 vol.01



はじめまして。バイトの齊藤です。事務所へ通い始めて早一ヶ月。建築と向き合い、日々学ぶことが多い毎日です。先日、所長が参加した住宅展へ行って来ました。思わず見惚れてしまうほど、素敵な住宅の数々。写真だけでも空間の心地よさが伝わってくるようでした。そして、建築家の方々のオーラに圧倒されながらも、色々なお話を伺うことができました。建築を勉強している身としてとても貴重な体験でした。

編集後記

みなさん、こんにちは。厳冬の 2 月、いかがお過ごしでしょうか? 一時期、雪がバカ降りで、一瞬あの冬の再来か? と思われましたが、その後天候も回復し、今のところむしろ過ごしやすい冬と言っています。現在、外回り工事中の現場もありますので、このまま春へ向かうことを祈るばかりですが、はたして・・・

過日、アーキテクツ・スタジオ・ジャパンの「未来へのぞく住宅展」に参加させていただきました。いわゆる建築家プロデュース(マッチング)システムとしては、日本最大級のネットワークで、全国の 1,100 余の建築家が登録されています。住宅展には、地元秋田だけでなく、仙台・東京・横浜の有名建築家も参加します。自分の営業活動はさておき、彼らの設計力・プレゼン力・トーク・パワー・タフネス、全てが参考なりまです(酒の席も含めて)。狭い秋田の建築界だけの付き合いでは決して得られない体験です。3 月中旬は盛岡、下旬は青森での住宅展に参加させていただきます。田舎者しかもアウエーという状況ですが、行く度に、少しでも多くのことを学んで来ようと思います。

それでは、次回もどうぞお楽しみに。



今月の加藤一成

打合せ室にて。写真が無かったので今撮りました(笑)。

Web Site

- Home トップページ
- Profile プロフィール
- Concept コンセプト
- Service 業務案内
- Works 設計事例
- Conference 無料相談

ニュースレター
「建築家の日常・非日常」
発行責任者: 加藤 一成

株式会社 加藤一成建築設計事務所
TEL. 018-831-4315
FAX. 018-831-4316
HP. http://www.issei-design.com
BLOG. http://issei-design.cocolog-nifty.com/
MAIL. info@issei-design.com